

< 斯波先生のご講演 >

はじめに

本日は、悪天候の中、ありがとうございます。

まずは、簡単に自己紹介からいたします。私は、調布市若葉町に住んでおります。生まれも育ちも仙川ですが、桐朋学園出身のため、あまり地域の方と交流がありませんでした。しかし、ご縁があつて調布むらさきロータリークラブに入会し、徐々に地域の方とつながりを持つようになりました。

今日は、調布市北部地区の住民の皆様と、みんなで創る住みよい「まち」＝都市、街、居住地について考えてみたいと思います。

1) 西洋の都市と日本の都市の違い

まず、私の研究対象がなぜ日本の都市ではないのかということからお話しします。「外国に行って初めて日本の良さが分かった」という話を聞きます。その中にいると気が付かない良さに、外から見ると気がつくことがあるからです。では何故ドイツなのか。中近世にはドイツは小国分立でした。国に護る力がないので、自分たちで守らざるをえず、都市では「都市壁」が作られました。その中は安全に生活ができ、安心して商取引が出来る空間「自治都市」となりました。このようにヨーロッパの中で最も強いドイツの市民自治に興味をもちました。しかし、市民には食料が必要です。周辺農村は都市に食料を供給し、都市は手工業品や地域内で調達できない、例えば塩などを農村に供給する社会ができました。私は、これを「自己完結型社会」と呼んでいます。

ヨーロッパの歴史を考えると、イメージするのは普通「ギリシャ」だと思いますが、現在のヨーロッパ都市は。歴史的には、おおよそ11世紀くらいまでしか遡れないのです。その原点であるドイツの中世都市を研究してまいりました。ヨーロッパの都市の数は、中世と現代で変わっておらず、人口だけが増加している状況です。

私が、主に注目をした都市は、北ドイツのハンブルクという都市です。この都市がどうしてこんなに大きくなったのか、どうして発展出来たのかに、興味が湧きました。発展した最初の要因は、ずばりビールです。製造工程に無駄のないビール製造に力を入れ、輸出商品にしていったのです。

ヨーロッパは、ブドウがとれるか否かでワイン文化とビール文化に分かれます。ただ、人々の嗜好は変化し、安いワインが流通し始めると、ワインの方が人気になっていきました。しかし、その後、嗜好がまた変化をして今度はコーヒー、紅茶と砂糖が人気になったため、ハンブルクは砂糖の精製に力を入れていきました。北ヨーロッパは厳しい環境の中で新しいものを取り入れていこうという

歴史がありました。

そのドイツには、現在コンビニがありません。日曜日には、百貨店などを含め全ての店が休みになります。はっきりいうと不便です。ドイツ国民はどのように思っているかという「我慢」です。日本人は「便利さ」を求め、人に迷惑を掛けないという気持ちが強いですが、ドイツ人は「我慢」です。ドイツの都市はもとも壁内の居住で、コンパクトシティでしたから、市内に住もうとすれば、土地が少ないので、庭付き一戸建てではなく集合住宅に住むことになります。便利なところに住みたければ、「我慢」が求められるのです。そのため、郊外にセカンドハウスを持ち、週末はそちらで過ごすという文化になります。緑を求めるために都市の近くには公園が充実しています。

2) 都市の拡大とゾーニング

都市が成長し拡大すると、限定された「まち」の中に中心業務地区と商業地区＝ダウントウン、居住地区とに地域区分ゾーニングされます。限られた居住地区では集合住宅で生活せざるをえません。お金がたまったら通勤にはちょっと不便でも郊外の庭付き一戸建てで過ごしたい。その結果都心部はお金持ちが減り、ドーナツ減少を起こしていきます。日本では都心に庭付き一戸建て、別荘を持ち、緑豊かな広い公園をとという無理な希望が語られます。

このように、日本の都市と西洋の都市は、随分違うのですが、西洋の都市に学ぶところはあるように思います。

自己紹介からの話しが長くなってしまいまして、申し訳ありません。ここまで、レジュメの1、2まであわせてお話しいたしました。

3) 住みやすい条件とは何か？住民アンケートからわかること

日本では、住民アンケートを実施しています。必ず上位になるのは、次の3つです。

- ① 自然が豊かであること
- ② 買い物に便利
- ③ 医療が充実している

人口や経済指標などのデータだけでは測れない結果が、住民アンケートでは出てきます。それらの動向を分析し、将来を考える必要があります。

4) 生活における地域内完結の重要性

調布市北部地域は、約2万世帯、約4万9千人の方が住んでおり、立派な「まち」と言えます。自然は豊かと言えますが、公共交通の満足度や日常の買い物はどうでしょうか？スーパーマーケットはありますので、食料品等の「最寄り品」

の買い物満足度は高いと言えます。

地域にスーパーマーケットがあり安心して、スーパー主体型のエリアになっていきます。例えば、イギリスの例ではスーパーは、売れ行きが良く儲かりそうなものだけを置くようになり、商品の偏りなどが生じてきました。常に競争が必要です。自己完結型社会では、食料や医療も含め、供給者側が主体ではなく「消費者目線」が生かされた商売が行われる事が重要です。

5) 生きるための場から楽しむ空間へ

また、買い物に行った際、「会話」が重要になります。例えば、男性は夕飯の内容を決めてから買い物に行きますが、女性は今日安い物や旬の食材などの買い物をしながら夕飯を考えると聞きます。その意味でも買い物の際の「会話」がとても重要になります。売る側は「消費者目線」を、買う側は「情報」を重視して買い物をしたいと思えます。

「必要なものを買う」まちから「買い物、食事、会話を楽しむ場へ、生活して楽しい地域づくり」を考えてほしいと思えます。

6) 消費者目線の重要性

個性的な街は住民が主役、第三者目線での修正、行政の関与

そこに住んでいる方が、その「まち」を好きにならない限り、「まち」は良くなりません。やはり、市民の皆さん自身が主役だという事を忘れて欲しくありません。そして、そこには「リーダー」が必要です。「リーダー」と共に一人一人が主役となって「まち」の発展を考えて欲しいと思えます。

そのためにも、このまちの「魅力は何か」を自分自身で知って欲しいです。更に、「第三者目線」で修正や指摘をしてもらい、まとめていくのが重要な事になります。まずは、皆さんには自分の住んでいる「まち」を大好きになって欲しいです。

便利さには、安全を脅かす要素になるものもあります。顔がわからないエリアの犯罪率は高くなります。便利さだけではない、「まち」の魅力も重要です。

7) まとめ—みんなで見つける地域の魅力。大好きな「まち」をみんなで作るために

① 地域内での相互扶助

「お互いに困った時には助け合う」

「人に迷惑を掛けないだけでなく、多少の我慢をする」

② どんな変化もプラスマイナスがある

「良い変化があれば、それにとまなうマイナスもあります」

③ 常に改善と進化を求める

「どんなに良くても、これで良いでは終わらない。常に進化が必要です」

④ 人の輪を作るのは、イベントです

「まち」が一つにまとまるのは、祭りなどのイベントが重要です」

「但し、まとまりが強すぎると外部の方が入りづらくもなるので注意が必要です」

⑤ 地域内の改善はここだけを良くしようとしてもダメです

「地域を超えた変化が必要です」

「全体の中でこの地域を意識して欲しいと思います」

「買い物上手になって欲しいと思います」

「仙川商店街は、良く見えますが、不完全商店街になってしまいました」

⑥ 便利でありさえすれば良いという発想ではダメです

よいまちにするためには常に「改善」と「進化」が必要です

⑦ この街をまず大好きになってください。

大好きになったら、もっともっと良いまちになるようにアイデアを出し合ってください」

そして、第三者意見を取り入れて修正して、この街の発展に繋げてください。

- 内野（長）：先生のお話を聞いて、感想など教えてください。
- 佐藤：今、コロナ禍でも開催ができそうなイベントを教えてください。
- 斯波：イベントのデパートという佐世保の商店街があります。そこではほとんど毎日何かイベントをしています。住んでいる皆様だけでやることもできますが、お店とタイアップしてやると効果的だと思います。フリマなどもあります。ただ、もう暫くはアイデアを練っていただき、住民が多く参加するこの地域ならではのイベントを考えていかれたらと思います。
- 内海：中央大学出身ですので学生時代に戻ったように聞いておりました。今までは便利になるのが「まち」の発展なのかなと思っておりましたので、大変勉強になりました。
- 吉海江：スーパーは商店街と共存共栄が大事だなと感じました。当店には「ふれ愛広場」というスペースがあり、これからも地域の方とのコミュニケーションをとっていきたいと思います。
- 斯波：イベントを考えるときに、スーパーさんと地域住民と是非協力してやって欲しいです。
- 古口：常に改善と進化が大事ということが心に響きました。
- 佐久間：調布に住んで20年近くになります。住みやすい条件、利便性と反している自然環境があり、子育てしやすい地域だと思っております。この会自体もコミュニケーションを取る大事な場だと思っております。
- 粕谷：ロータリークラブで一緒しておりましたが、きちんとした話しを聞いたのは今日が初めてでした。私もマルシェ担当の責任者ですので、頑張ります。
- 丸山：参考になる話しでありがとうございました。この会自体の方向性は間違っていないと確認できました。
- 内野（美）：仙川商店街が不完全商店街という部分を詳しく教えてください。

■ 斯波：仙川商店街は、スーパー以外で野菜や魚、肉などをそれぞれ売る個店がなくなってしまいました。これらの店が揃っている商店街を完全商店街と呼んでいます。

■ 金子：住みやすい条件とは自然が豊かで、買い物が便利で、医療が充実しているというのが、非常にこの「まち」に当てはまっていると思いました。

■ 富澤：他の地域を旅行すると、この地域の人はどうやって暮らしているのかなど興味を沸き見えています。そして、調布の「まち」と比較して、調布の良さを再確認しています。便利なのは確かに良いですが、安全性を担保していないとダメだと改めて感じました。

地域の人同士が挨拶出来る「まち」になっていきたいです。ハザードマップが最近配布されておりますので、例えば、台風の場合、染地の方を深大寺地区の方が一部屋避難場所として受け入れたらと思います。